

東北地方整備局職員2名が
平成27年度文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞を受賞

～4月14日(火)当整備局において伝達式を行います～

文部科学省では、優れた創意工夫により職域における技術の改善向上に貢献した者を創意工夫功労者として表彰しております。

平成27年度は、当整備局職員から「雪上走行用小形除雪車の考案」を行った2名が受賞しました。

○創意工夫の内容・実績(別添資料参照)

本件は、ゲリラ豪雪により、大型車両などがスタックして、走行不能となり、大規模な渋滞や通行止めに至る事例が発生したことを受け、現地調査などの初動対応を迅速に行うための調査車両として、雪上走行用小形除雪車を考案したものです。

本小型除雪車は、渋滞車列の間などの狭隘部でも進入可能な狭小ボディを有し、路肩などに積もった深雪上でも走行可能な能力(ゴム履帯)を備えるなど、迅速な初動対応が実施できるよう開発したものです。また、狭隘部における除雪作業の安全性を確保するための安全装置、渋滞車両などへの情報提供設備などを装備しています。

平成27年3月末現在、東北地方整備局管内に2台配備され、ゲリラ豪雪時にはいつでも出動可能な体制を整えています。

○伝達式

伝達式は、文部科学省で実施している科学技術週間(4月12日～18日)の行事の一環として実施します。

・日 時 平成27年4月14日(火) 11:30～12:00
・会 場 東北地方整備局 応接会議室 (二日町庁舎2F)
・受賞者 今野 孝親
企画部 技術管理課 基準第三係長
増田 陽介
酒田河川国道事務所 月山国道維持出張所 管理第三係長
・伝達者 東北地方整備局長

○取材について

取材の受付は会場前にて11:00より開始します。取材は担当者の指示に従ってください。

〈発表記者会:宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会〉

問い合わせ先 国土交通省 東北地方整備局 Tel.022-225-2171(代表)
伝達式: 総務部 人事課長 川崎 敦司(内2251)
技術関係: 企画部 施工企画課長 山尾 昭 (内3451)

雪上走行用小形除雪車

別添

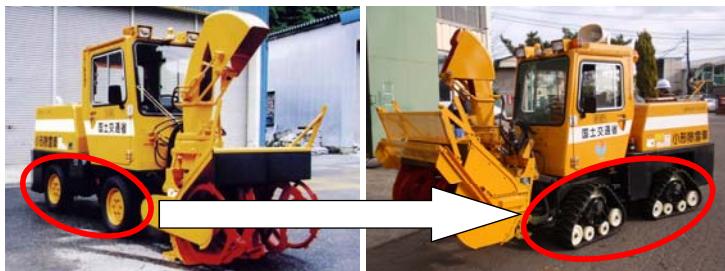
開発の目的

- ◇雪害発生時における各種対応の迅速化
 - ・深雪時等の情報提供・収集
 - ・人力作業から機械作業へ
- ◇歩行者の安全確保
- ◇作業者の安心確保



1. 走行性の向上

タイヤからクローラへ交換することで
新雪・深雪上での走行が可能に！



1. 0m級小形除雪車(改良前)

雪上走行用小形除雪車(改良後)

深雪走行試験状況

ロータリー装置未使用



試験時: 舗装面から40cm程度の積雪深

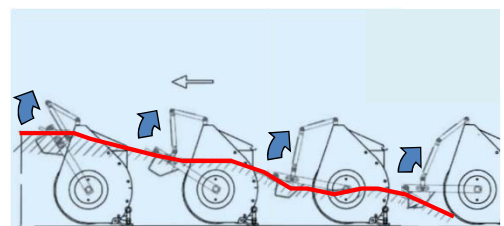
※除雪ステーション内での交換作業が可能！
(交換所要時間 約1時間弱)

2. 安全装置の装着

オーガ安全カバーを装着し
歩行者の安全・作業者の安心を確保



堆雪に応じ自動追従可能！



オーガ安全カバーの動き

雪上走行用小形除雪車

3. 既存除雪機械との比較



小形除雪車(1. 0m級) (改良前)	
走行速度	15km/h(除雪時: ~5km/h)
接地圧	平均200KPa
最小回転半径	4.0m
搭乗員数	1人

雪上走行用小形除雪車 (改良後)	
走行速度	15km/h(除雪時: ~5km/h)
接地圧	平均36KPa
最小回転半径	4.0m
搭乗員数	1人

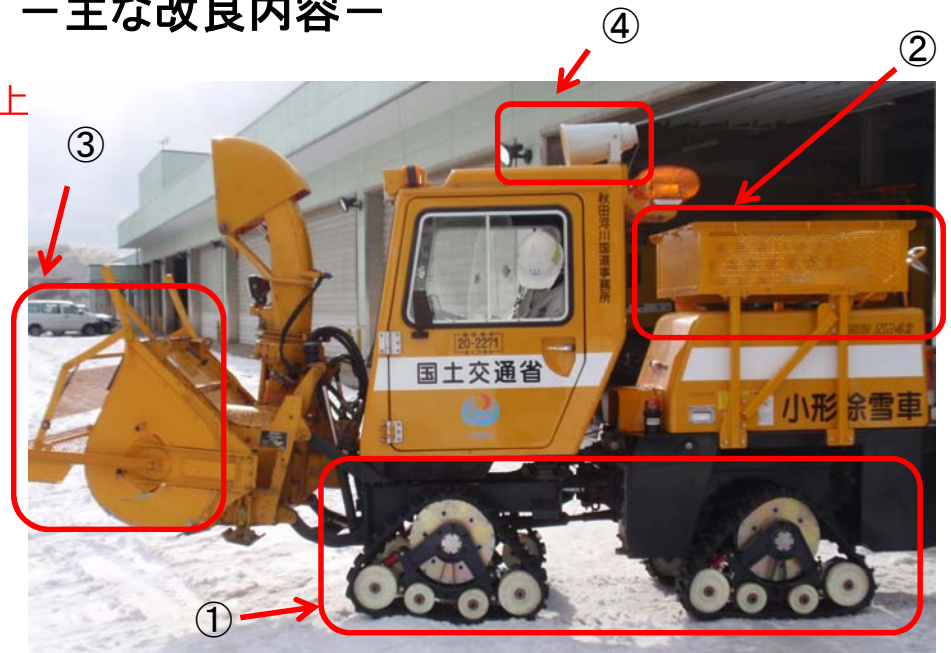
— 主な改良内容 —

①低接地圧化による走行性の向上
→三角型クローラの装着

②資材運搬能力の確保
→荷枠を設け、資材積載スペースを確保

③安全性の向上を図る
→オーガ安全カバーを装着

④広報・通信装置の装備
→スピーカー、無線装置装備



東北地方整備局管内配備状況

秋田河川国道事務所(秋田防災ステーション) } 各1台ずつ配備済
郡山国道事務所(西会津ステーション)